

---

# Painkiller チンツウザイ

並盛りライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

P a i n k i l l e r    チンツウザイ

### 【Nコード】

N 6 8 3 4 A

### 【作者名】

並盛りライス

### 【あらすじ】

僕は頭が良くない、知識をひけらかす辻山の事が嫌いだ。そしてそんな僕にある転機が…

僕は、辻山のことが嫌いだった。

自分の知識を披露することを最大の喜びとしていて、それはいつも、僕に対して行われた。

僕が、この上なく無知なことをあざけ笑い、自分がいかに知識を持っているのかを喋るのだ。

そういう時の彼の目は、悲哀に満ちていて僕のことを哀れむのだ。

それが堪らなく嫌で、僕は時々、胃の中のものを全て吐き出さなければならなかった。

僕には、知識で辻山を圧倒することが出来ないことはよく分かっていたし、

彼が、博識な知識人だということも認めていた。

でも、僕は辻山が嫌いだった。

その日も、僕は朝から胃がムカムカしていて、出勤する前に薬屋に寄った。

しかし、いつも胃薬を買っているドラッグストアは改装中で、仕方なく近所の薬薬局に開くのを待って入った。

急いでいたが、なかなか目当ての薬が見付からず、店内を見て回っている、妙な薬が見付かった。

「頭が良くなる」

という、いかにもなネーミングで、売れてますシールが貼ってあった。

僕は迷わずこの薬を買った。

さっそく、いつも薬を飲むために常備しているミネラルウォーターで、薬を飲み下した。

しばらくすると、みるみる頭が冴えてきて、頭の中がすっきりと明瞭になっていった。

その日の僕は何もかも上手くいったし、つまらないミスもしなかった。

ただ一つ誤算だったのは、辻山に薬を見せたことだった。

彼は、僕を哀れんだような目で見て言った。

「これは、ただの頭痛薬だ。」

僕はさらに、辻山の事を嫌いになった。

最近では頭も痛くなってきて、頭痛薬を常備している。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6834a/>

---

Painkiller チンツウザイ

2010年11月5日01時48分発行